

基本的なスタンス

1. 子どもが自ら学ぶために、
子どもの立場になって考える
 子どもにとって授業は、どんな体験になっているか？
 子どもは授業をどのように受け止めているか？

授業を計画するとき

2. 子どもが自ら学びふために、
目的意識をもてる活動にする

3. 子供同士が互いに学び合うために、
**一緒にやる必然性のある
 環境・活動にする**

4. より学びの多い活動にするために、
**「この活動で子どもはどんな学びを
 するか」を考える**

授業での教師の役割

5. 教師が子どもの考えを受け入れる意識をもつために
授業に柔軟性をもたせる

6. 子どもが自発性を発揮しながら学びふために
教師と一緒に活動してモデルを示す

7. 子どもの活動が、本人にとってより意味深いものになるように
**試行錯誤を通じた学びを大切にする
 /避けるべき失敗は回避する**

8. 今日の学びが、意欲や次の学びにつながるために
**自分ができるようになったこと、
 がんばったことに気付けるようにする**

子供の様子の記録・評価

9. 活動を通じて学ぶ様子を見るために
エピソードで授業の様子を記録する
 ○×のチェックでは、どんな文脈で学んだか分からないので

10. 子どもが思考する様を見るために
**子どもの様子から、意図・感情・内面
 を読み取る**
 できたことだけでなく、過程を見るために

11. 子どもの多方向な学びを見るために
活動の様子から学びや成長を読み取る
 設定した目標だけでなく、予想外の学びも見するために

エピソード記録の中で

「11の視点」についてのおさえ

- ・視点の本質はどれも、「子どもが自ら考え学ぶため」であり、そこから外れないことが大切。
- ・視点を具体的な行動として定義すると、それを基準とすることばかりが意識され、視点の本質が意識しにくくなると思われる。そのため、ある程度捉えに幅がでて、抽象的なものにする。
- ・視点は基本的には、「授業づくりの際に絶対に行う基準」ではなく、「授業を考える際のポイント」と捉えたい